

～入門編～

教員にとって社会科は、教えることが多いので難しい。子どもたちは、覚えることが多いので大変だ。暗記が苦手なんだ。と、という言葉をよく聞きます。実際、私も採用されて間もないころ、いわゆる教え込みの授業をしていました。子どもたちは、とても退屈そうにしていました。



社会科の授業が、
うまくいかない。
どうしてかな？

小学校の先生は、すべての教科を教えます。しかし、自分の得意な分野、研究してみたい分野があります。私は、社会科の授業がうまくいかないこともあって、京都市小学校社会科教育研究会という研究団体に入り、どうすれば社会科の授業がおもしろくなるのか研究を重ねてきました。研究を重ねるごとに、少しずつ手ごたえを感じ、納得のいく授業ができるようになりました。長年、私が積み上げてきた社会科教育の取組をこの学校ホームページで紹介できたらと思い、「社会科の窓」をつくらうと決心しました。

連載講座1回目は、基礎編です。社会科で最も大切なことは、問題意識のもたせ方です。「いったいどうなのかな。」「なぜ、こうなっているのかな。」こうした問い（疑問）をもとに、学習問題をつくっていきます。それには、事実や事象とどのように出会わせるかにかかっています。

